



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1925, 4(1): 92-97

ISSUE DATE:

1925-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182964>

RIGHT:

雜 報

○加奈陀に於ける氷河の研究

最近刊行せられたア

ンヘルタ・ブリチッシュ・コロムビア境界調査 (The Alberta-British Columbia Boundary Survey) の諸地圖 (第一部は一九二〇年のジオグラフィカル・レビュー、第十卷、二七五頁に評論せられた) は、實際未だ研究の及ばないカナディアンロッキース地方に於て研究を遂げんと欲する氷河學者に取りて稱嘆すべき基礎業績を供するものである。新らしく此の地圖上に示された氷河の一は最近一九二二年ホワード・バーナー (Howard Pa. Inner) 氏が之れを踏査し、其の報告が Smithsonian Misc. Coll. Vol. 76, 1924, No. 11 に發表せられて居る。之の氷河は Fresh field Glacier と稱せられルイズ湖 (Lake Louise) の北西六十五哩の地點に存する。其の源はロッキース山脈の主脈を軸とする向斜皺曲中の廣い扇狀の平底凹地を占め、其の周圍の高地は標高一萬呎を超えて居る。氷は幅四分三哩、長さ三哩の一舌狀氷河 (Ice tongue) をなし峡谷様の豁谷を通じて東北方に出て居る。此の氷河系に於ける氷及萬年雪 (Nieve) の面積は二十二平方哩を占めて居る。

此の氷河に關しては七月中其の日々の運動に關する觀測が行はれ、其の結果、測定せられたる最大速度は四・八三吋なる事が明かとなり、又其の舌狀氷河の位置に關する研究が行はれた

がバーナー氏は、此の氷河は、彼が過去十五ヶ年間カナディアンロッキースに於て見たる他の諸氷河と同様疑なく後退の情態に在る、と報告して居る。此のフレッシュフィールド氷河は渾い半圓狀の凹狀唇で終り其の唇狀部は標式的の縱溝を有して居る。其の後退に關しては何等精密なる材料の利用すべきものもないが、一九〇二年に撮影せる寫眞から此の氷河の最近二十年間に於ける後退は一年平均四十六呎と計算せられる。(ジオグラフィカル・レビュー、一九二五年四月號、三〇二—三〇三頁、小牧)

○西班牙諸港の變遷

(マーク・セファアソン) カット

ー・イエツスエン博士 (Olof Jessen) はシエルトン教授と共に古代のタルシツシユ (Tartish) たるタルテツソス (Tartessos) の位置を探究せんが爲めアンダルシヤ地方を踏査した。博士の目的は地質學的證據の探究にあつたが其の報告が一九二四年のペーテルヤンス・ミツタイルンゲン・エルゲンツングスヘフト第百八十六號に掲載せられて居る。此の報告によればタルテツソスは實際には發見せられなかつたが、博士の考へによれば、タルテツソスはスエヴァイルの下流、グアダルキヴァイル河口の砂洲上にあり、恰も紐育に對するサンディフツクの如き位置に存し、唯スエヴァイルは紐育と比較して河の上流四倍の距離に位置するを異なる點とするのみであるとの事である。比較的後代の羅馬の一流村が其の砂洲島の内側に於て發掘せられたが、博士はタルテツソス港は其れより少しく外側の高い砂丘の下深くに横はつて居るのではないかとの考へを抱いて居る。

彼の報告の大部分は該地方の地質の詳細に關する精密なる説

明よりなつて居るが、然しながら又西南西班牙の諸港市に關する興味ある材料をも包含して居る。

葡萄牙との國境よりシブラルタル海峡に至る、柔かい曲線となす西班牙の海岸は、アンダルシヤの前面を縫ひ着けた花綵の如き一連の海岸砂洲よりなつて居る。アンダルシヤの海岸とは、地理學的に云へば、シエラ・モレナの葡萄牙に於ける西部餘脈より、シエラ・ネグアダの海峡に臨む西端に至る間、グアダルクビールの谷が海に臨む所である。

フエニシヤ若しくは其れ以前の三港市が古い時代より此の海岸に覇權を握つて居た。三港市とは第一にフェルヴァ(Thelva)であるが之れはオアイエル・リオ・ティント(Odierio Tinto)の上流十里の地點に存し、此處でフエニシヤ人が重要な銅山を開發した。第二はタルテッソスであるが此れは三港市中最も古く丁度グアダルクビール河口の内側に位し、此れを根據地としてフエニシヤ人は錫と琥珀とを求めて英國及びバルト海方面に交通し又金と象牙とを求めて亞弗利加の西岸を南航したのである。第三はカティズで、此れはシエラ・ネグアダが西方へ延びた山嶺の中最西端となす小岩島上に存する。

フェルヴァばリオ・ティントの鐵石を商ふ爲に創設せられた港であつたから常に此の目的の爲めに港市としての生命を保持した様なものであつた。一八七〇年以來新たに外國人によつて鐵山が開發せられ又鐵道が敷設せられたので、人口僅が一萬七千の此の小都市に活潑なる近代的の生命が賦與せられた。タルテッソスは大西洋方面との交易、其の結果としてアンダル

シヤに於ける輸出用葡萄及び橄欖の開發によつて恐ろしく富裕であつたが紀元前五〇〇年カルタゴ人に亡されてより其の盛なる商業はカティズに移つた。

次の五世紀間はカティズに取りては最初の華やかな時代であつた。初めはカルタゴ人、次で羅馬人、更に次ではヴィシゴート人と常に外國人の勢力下にあつたが、非海國的のムーア人の勢力下に置かれるに至つてよりは全く其の重要な地位を失墜した。第二の華やかな時代は其の後一千年にして臻り、印度會議がスエヴィルより此の地に移されてより、西班牙の占めたる有利なる亞米利加貿易の獨占權を握つた。今日のカティズは其の位置餘りに海に瀕し却て不利であるけれども可なり活氣を帯びて居る。大西洋の波浪に噬まれる狹隘なる小岩島上に位置して居るので其の僅かに五平方哩に過ぎない狭小なる面積には七萬七千を算する住民相稱がり其の爲住民は數階の高屋を建造しなければならなかつた。後方地帶との鐵道連絡は不完全であるから旅客も貨物もグアダルクビールを溯航してスエヴィルに至り、此れが主要なる運輸系統となして居る。然しながらカティズも又活潑で、其の高い白色の家屋が屋上に高塔を頂いた點など無雙の景觀で、又英國人が一五九六年此の都市を破壊して復活した部分の外観は近代的のものである。食料品は凡て、飲料水すら多くは海によつて此の近代的の都市へ運搬せられる。水が運搬せられると云ふのは羅馬人の水道が其の後廢滅に歸するにまかされて來たのによる。

大洋貿易に従事したフエニシヤ人の足場となつた此等各特徴

ある海岸港市の後方、グアデルキヴィル河口より上流五十哩の地點、アンダルシヤの葡萄園橄欖林の中にスエヴィルの町が横はつて居た。此の都市は稍内陸に位したので土地開發に意を用ひた羅馬人が之れを重要な位置に置くまでは取り殘された形であつた。而して天氣變くが如く雨量の少き此の土地が第一期の繁榮時代に入つたのはムーア人が灌溉工事を施してからであつた。次に第二期の繁榮時代に入つたのは亜米利加發見以後新大陸との交易の獨占權が一五〇一年に此の都市に歸した時であつた。西班牙の諸鐵道が建設せられアンダルシヤの貿易に刺戟が與へられて以來第三期の繁榮時代に入り今を頂上と榮えて居る。二十萬の人口を有する活潑なる近代的の都市である。

現在のスエヴィルの活氣は上述の如き時々繁榮中恐らく最も健全なるものであり、且、西班牙人自身の努力に負ふ所であるけれども、此等諸港市の全歴史はザラルタルと同様多く外部の力に依頼した跡歴然たるものがある。西班牙は前後を通じて外來者によつて事をなされた。リオ・テイントの鑛山を開發し、大西洋上の貿易を發達せしめたのはタイル及びカルタゴであつた。水道及び灌溉工事を施したのは羅馬人及びムーア人であつた。而して其の建設者たる羅馬人及びムーア人が歴史の舞台より滅するや此等のものは又廢滅に歸したと云ふ有様である。又セノア人コロンブスは一帝國に相應する海外貿易を西班牙の掌中に投入したが西班牙は之れを維持する事が出来なかつた。又現在の鑛山及び鐵道は北方外人の初むる所で其の活氣は固より彼等に負ふ所である。

繁榮の都市スエヴィルと雖も、大船をして其の埠頭に溯航せしめんがため水深淺く屈曲せるグアデルキヴィル河疏通工事を四十年前以前に着手しながら未だに竣工し得ず、又都市のため適當なる防堤を築造し瀕發する洪水を防禦する事すら出来ない。カティズと雖も充分なる活氣を振興し必要な鐵道を敷設する事が出来ないのである。

之等凡てを西班牙人の懶惰に歸すべきかと云ふに然らず彼等は懶惰ではない。幸運が屢々住民の掌中に富を惠んだに拘らず彼等が敢て努力を試みながつたのは寧ろ彼等が初めより恐ろしく勇氣を缺いて居た爲めで、恰も亞米利加諸國中ヘルミ墨西哥が其の豊富なる金銀に呪はれたかの觀あると同様の事情によるのではないかと思はれる。(ジオグラフィカル・レビュー、一九二五年四月號、三〇四—三〇五頁、小牧)

○百合球根の輸出 日本から米國へ輸出されて紐育に到達する百合根は、一九二〇年七月から一九二一年六月迄の間に六、二七五、六六六個の多數に達し、主として埼玉縣の黒軸鐵砲百合で花が赤白の鹿子にさくものであるが、赤鹿の子八吋以上のもので一箱につき(約二百個内外入)紐育着目下卸賣十五弗見當である、小賣相場は約十八弗で白鹿子の方は價が丁度倍額になる、米國紐育へ輸入せらる、水仙や鬱金香や百合の球根が昨年下半年に二二三、九三七、〇二〇個もあつたので金銀も五百四十萬弗の多きに上つてゐる、この中で百合根は獨逸品と日本品との競争である。觀賞用であるが、食用百合として輸出されるものは只今の所では絶無である、園藝家の注意を要すべき作

物であるを信する。

○米國北西部森林資源

近來我國へ盛んに輸入せらるる米利堅材の本國たる米國北西部の森林面積が元來如何程有りしやば信頼すべき統計なきも一九二〇年の林務局の報告によればオレゴン、ワシントン、カリフォルニア三州元來の森林資源は面積七千七百十二萬英町なり、然るに現在残れるものは五千七百五十八萬六千町歩、この中にてまだ斧鉞を加へざる處女林は三千九百萬町歩内外なりといへば、森林は當初の二分一を失ひたる次第にて近時、其資源涸渇を論ずるもの多き所以ありといふべし、而して伐採による年々森林の涸渇狀況を觀るに、華州の伐採は六十億B M呎、オレゴン州三十五億B M呎、アイダホ州八十五億B M呎、モンタナ州四十萬B M呎、加州約十五億B M呎なり、つきに火災による涸渇も頗る夥しく一九二二年には華州にて森林火災の尤も多き年に屬し同年中に災害をうけし處女林の面積は六萬八千萬町に達し全體の一成に及べり、一九一七年より一九二二年迄華州内にて火災を發生したる植林區域の面積は百萬英町歩、即州内植林區域二〇%が火災の爲めに破壊せられたり、かく伐採と火災とにより年々涸渇の森林の比率は華州は二%、オレゴン州一%、アイダホ一・四%、モンタナ州一%、加州〇・七%、此調子にて森林涸渇が進行せば華州森林資源は五十年にて全部涸渇し去るべしと云ふものあり。

茲に於て近年米國北西部地方にて山林保護問題が世人の注意をひきたるも、私有林多き國とて成績の見るべきものなく米國にて植林の發達せるは紐育州とペンシルバニア州等風に森林を

消耗したる州に限り、華州の如き最近漸く植林の獎勵に注目するに至れる狀況ありとす、かゝる事實は單に對岸の火災視すべきことにあらず、日本の如く森林に乏しきに加へて木造家屋の關係上木材を需要すること多く將來製紙其他各種工業の爲め木材を要すること益々多からんとする國に於ては、國有材公有林を擴張し、課税制度に依り、私有未熟林伐採の氣勢を減殺し、私有山林地の植林を獎勵し裸山の存在を許さず、更に家屋に對する木材規格のスタンダードイセーションを研究考慮して、木材使用に際し木屑發生を最小限度に止むるが如き方法に出でざるべからず、北米大統領クリッヂ氏は其國の林產會議の席上にて、木材が切出より消費に至る過程にて三分一は廢棄せらるゝと斷言しかゝる廢物の成るべく少きこと、其利用方法を研究せんことを望みたる由なるがいかによれば木材の生産に際して木材の廢り屑を減少せしむるか、二、如何にせば切り出したる木材の効用と供給を大にすることを得るかとの二大問題は單に米國のみの問題にあらずと知るべし。

○パンジャブ事情

パンジャブは其國內にある藩邦を加へて面積十三萬七千方哩即ち八千六百萬噤に及び英本國の七千七百萬噤に比し遙に勝り、藩邦を除くも尙六十萬噤ありて不列顛國の五千六百萬噤を凌駕す、一九二一年調査に據る人口二千五百萬を有し北西國境州及カシミールと共に印度帝國の西北端に位す、北西國境州並カシミール及近時創設せられたるデリー市を除きシンド及ラジプタナの北方英領印度及ジユムナ河の西部を包含し、此にヒマラヤ山脈連り、西はヒンドスタンの一部

を加へ、南方ラジプタナの大草原に蠶食す、西部地方に於けるアラ・ガシ・カーンにありては其風俗習慣等るベルチスタンに類似す、パンジャブ及此西國境州はヒマラヤ山脈と西部を限るスレイマン山脈との會する角隅を占め、亞細亞大陸の西部地方と印度とを連ぬる唯一の通路に當りて印度帝國の關門をなすアリアン及スキシア人が其不毛の高原を後に豐饒なる印度大平原に移住し來れる、又アレキサンダーの征服隊、多數支那人の巡禮の群、未曾有の大ムヘマダン帝國を創立せる、ムサルマンの來寇、コムド、チムール等の率ゆる劫掠隊、更に又ババール及ヒュマユンの諸隊何れも此處に其進路を求めて印度に進入したるものとす。

本州は四面陸に包圍せられ其河川は多く舟行の便を缺き近時農業發達して産額多額に上るも三方に面接する諸邦即北方カシミール西藏西方に於けるアフガニスタン、ベルチスタン、南方ピカナル、ラジプタナは何れも人口比較的稀薄にして文化尙開けず之を賣買すべき市場に乏し、只東方合併州には數多の市場あり、然るにパンジャブ及合併州は地質殆ど同一にして氣候住民亦等しく其産物も略々類似せる所あるを以て市場に於て互に相競ふの狀態にあり、本州の大部は廣大なる沖積平原より成り東方ジユムナ河より西スレイマン山麓に及び、灌漑工事普及し、北部山麓地帯と共に地味最肥沃なる所とす、パンジャブ平原中東部は三萬六千方哩ありて人口五十萬、ラホール市の東方は雨量比較的多く灌漑の便に依らず、耕作し得る季節を有す、都市多くしてラホールの外アムリツァあり住民は之を西部地方

に比するときは概して都市に集中する傾向あり、西部平原は五萬九千方哩、住民六百萬餘降雨到る所僅少にして灌漑の便によるに非れば耕作し得ず、チエナブ及ジエラムの兩運河地帯に宏大なる植民地を有し最近著しく人口を増加しマルタン及リアルプールは西部に於ける大都市とす。

氣候寒暑の差甚しく所謂大陸性氣候にして冬季は平原にて既に氷點下數度を下り、夏季五、六月の交は百十度より百二十度に到るに稱せらる、雨量は北部ヒマラヤ山麓に多く平原に到りて漸く減少し西部及南部には極めて少し、孟買方面より來るモンsoonはアラビア海及デカン高原に於て既に衰へ僅かに其餘波、東南パンジャブに及ぶところのみ、四月より六月に及び暑氣最熾しく乾燥せる熱風は砂塵を上げ、九月中旬より十月初旬には晝間酷暑依然たるも夜間少しく涼氣を覺え十月中旬より十一月に至る間は氣溫激降し一年を通じてパンジャブに於ける最好期なりとす、山地は暑氣中庸なるも寒氣更に甚し、住所はマホメダン、ヒンズウ、シークの三教徒あり、このマホメダンに屬するギャツと稱するもの農民中最勢力ありて五百五十萬を算し全人口の五分一にあたる、この次にラジプツ族と稱するものありギャツ及ラジプツは印度軍隊中にも之を見るべく共に重要な農民なり、パンジャブ語を主として用ひ山間にはババリ語を用ふ其他種々の言語あり、農業を以てパンジャブ重要な産業とし住民の五割六歩之に従事す。

英國領地域の約六分一は政府の所有にかゝり、六分五は個人所有なり、政府の所有地は位置不良にして灌漑工事を更に擴張

新刊紹介

○海南小記 柳田國男著

東京市外大岡山高工前大岡山書發行
定價參圓貳拾錢 四六版本文三七九頁

するに非れば耕作に適せず、ローラー・キヤナブ運河の完成は二百萬畧の地を耕作可能ならしめ、ローラ・ジエラム運河は四十萬畧ローラー・パリ・ドーブ運河は百五十八萬畧を耕作地に化しうべし小麥、大麥、米、玉蜀黍、豆、油種子、甘蔗、柿等を生産品とし小麥の産地も多く、家畜業亦行はる。

○第四十二回文檢地理科豫備試驗問題 大正十四年五月。

一、濃尾平野の人文地理を説明せよ。

二、アルプス山系の構造を概説せよ。

三、フランス・ベルギー・ドイツの地圖を描き、主要なる工業地域を記入し、且つ其の現況を説明せよ。

四、南アメリカの地圖を描き、植物帶を記入し、且つ之を説明せよ。

五、カナダの南部を東西に横斷する時は、人文地理上如何なる變化を目撃するか。

六、次の諸項を説明せよ。

截頭河 (Beheaded river) 雹及び霰 保護國 緩衝國

七、左の地につきて知る所を記せ。

汴洛鐵道 スピッツベルゲン (Spitzbergen)

南ローデシア (Southern Rhodesia) カヴィエ (Cavite)

ナウエン (Naumen)

土俗の沿革が人文地誌の研究に重大な意義を有するのは、今更言を待たぬ事で、この方面に興味と造詣の深い著者が、嘗て旅行せられた九州東南部の諸島から、紬と飯匙^{アミ}借^テでも知る奄美大島を経て、沖縄諸島に至る間の島々の珍奇な土俗や傳説を、著者獨特の麗筆を以て、頗る面白く書き列れ、其間に著者の考説と批評との巧に織り込まれたものがこの海南小記である、先づ豊後、日向、薩摩のカライモ地帯に筆を起し、大島女^{アミ}の入れ墨、猪から『わのこ』の變遷、沖縄諸島の祭祀、婚禮の奇習、豆腐や屁の珍談に興湧くが如く、島の清水波^{アミ}び美女の神話から、艶物語に今古滾々として盡きざる情趣が味はれ、炭焼の黒夫から金色燦爛たる萬能長者の立身談は、陸奥の北端から沖縄の南端まで一貫して、本邦冶金鍛刀術の沿革に一道の光明を投げるのみならず、情夫をも起たしむるの概があり、島の浦葵の清新なる風は、邊陲降神の靈境から、九重の雲上に及んで、其由來の古く神々しさを偲ぶに足る、著者は序文に『小さな味敷の記録に過ぎない』と自ら謙遜せらるゝが、實に海南諸島の土俗誌に一新機軸を開いたもので著者が、序文に、日本土俗誌の開拓者